

## JNUQ-LC study のデータを用いたがん患者の体重減少構造の解析

### 1. はじめに

今回の報告では JNUQ-LC study（非小細胞肺癌患者の体重および QOL 等に関する臨床研究）の主解析結果を報告する。2 節で臨床研究概要を述べ、3 節で行われた解析の流れを明らかにし、4 節で今後の課題を挙げたうえで、5 節で今後卒論として具体的にどのような統計解析を行うかについてお話ししたいと思います。

なお、発表資料は発表終了後回収いたします。

### 2. JNUQ-LC study の概要

がんの患者数は年々増加しており、先行研究においても体重減少ががん患者の全身状態悪化及び予後不良を引き起こす可能性が示唆されているが、がん患者の中で体重減少を呈する集団の背景因子、及びがん患者において体重減少が全身の状態に対して具体的にどのような影響を与えるかは不明である。JNUQ-LC study では、がん患者を対象として、体重及び QOL の自然経過を確認して体重変化と QOL 変化との関係を検討すること、およびがん患者の状態推移を把握することを目的としている。また、臨床パラメータについてもあわせてデータを取得し、体重減少に伴う臨床パラメータの変動や、体重と QOL の関係に影響を与える背景因子を探索する。

対象はステージ IV の非小細胞肺癌患者。研究デザインは多施設共同前向き研究で、がん患者を 52 週間フォローし、4 週間ごとに様々な項目を観察する。

### 3. JNUQ-LC study で行われた解析

記述統計、回帰分析、生存時間解析、因子分析、主成分分析、GEE が行われ、末期がん患者における体重、QOL、臨床検査値の動向や、体重変化と QOL・臨床検査値等との関係、体重減少と生存との関連、QOL 構造の把握等が行われた。

### 4. 今後の課題

- ・体重減少や生存に関連する因子は見つかっても直接的な原因を把握するのは難しい。
- ・臨床パラメータを解析に用いる。

### 5. 今後の具体的な統計解析

現在、研究事務局（TORG）からデータの使用許可をいただけていないが、がん患者の予後因子の探索、体重減少構造の考察等に関する統計解析を行いたいと考えている。因子分析や生存時間解析等を行い、臨床所見や臨床パラメータと体重減少・生存との関連やがん患者の予後因子についての考察を深めたい。